

平成 30 年 9 月 12 日

お客様各位

日本化薬株式会社  
アグロ事業部

「フーモン®」登録内容変更のお知らせ

拝啓

時下ますます御清祥の段、御慶び申し上げます。

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、このたび、ご愛顧いただいております気門封鎖型殺虫殺菌剤「フーモン®」（登録番号第 23741 号）が、平成 30 年 9 月 12 日付で登録内容変更（展着剤用途の追加）となりましたのでお知らせいたします。変更後も引き続き「フーモン®」をご愛顧いただきますようよろしくお願いいたします。

敬具

記

| 登録番号      | 農薬名（商品名） | 農薬の種類名           | 製造者名     |
|-----------|----------|------------------|----------|
| 第 23741 号 | フーモン®    | ポリグリセリン脂肪酸エステル乳剤 | 日本化薬株式会社 |

®は日本化薬の登録商標

#### ■変更内容

下記の通り「適用病害虫の範囲及び使用方法」の登録内容が変更になりました。

農薬登録申請書第 7 項について、以下のとおり変更し、別紙 1 とする。

展着剤として、適用農薬名「殺菌剤」、作物名「野菜類、豆類（種実）、いも類」を追加する。

農薬登録申請書第 8 項 10)、11)として以下を追加し、以下、繰り下げて別紙 2 とする。

10)展着剤としての使用に当たっては、使用農薬の使用条件や使用上の注意事項を厳守すること。

11) 展着剤としての使用に当たっては、使用農薬の使用条件や使用上の注意事項に薬害の生じやすい作物、気象条件などが記載されている場合には、本剤の使用を避けること。

#### ■本剤に関する問い合わせ先

〒100-0005 東京都千代田区丸の内 2-1-1

日本化薬(株) アグロ事業部 営業部 営業企画担当

電話：03-6731-5321 FAX：050-3730-7867

別紙 1

(変更後)

適用病害虫の範囲及び使用方法

殺虫・殺ダニ剤、殺菌剤として使用する場合

| 作物名         | 適用病害虫名                            | 希釈<br>倍数 | 使用<br>液量         | 使用<br>時期       | 本剤の<br>使用<br>回数 | 使用<br>方法 | ポリグリセリン<br>脂肪酸エステルを<br>含む農薬の<br>総使用回数 |
|-------------|-----------------------------------|----------|------------------|----------------|-----------------|----------|---------------------------------------|
| 野菜類         | ハダニ類<br>アブラムシ類<br>コナジラミ類<br>うどんこ病 | 1000 倍   | 150～500<br>ℓ/10a | 収穫<br>前日<br>まで | —               | 散布       | —                                     |
| りんご<br>かんきつ | ハダニ類                              |          | 200～700<br>ℓ/10a |                |                 |          |                                       |

展着剤として使用する場合

| 適用農薬名 | 作物名                | 使用量<br>(希釈倍数)              | 使用<br>方法 |
|-------|--------------------|----------------------------|----------|
| 殺菌剤   | 野菜類、豆類(種実)、<br>いも類 | 10 ml/散布液 10 ℓ<br>(1000 倍) | 添加       |

## 別紙2

(変更後)

### 使用上の注意事項

- 1) 使用量に合わせ薬液を調製し、使い切ること。
- 2) 散布液調製の際はよくかき混ぜ、調製後はなるべく早く使用すること。
- 3) 本剤薬液が害虫にむらなくかかるよう葉の表裏に丁寧に散布すること。散布液が直接害虫にかかると効果が期待できない場合がある。
- 4) 本剤は残効が短く、害虫の卵に対して効果が劣るため、害虫の増殖期や圃場外からの飛び込み盛期には、5～7日間隔の連続散布で使用するか、他剤とのローテーション散布で使用する。
- 5) 散布水量は対象作物の生育段階、栽培形態及び散布方法に合わせて調節すること。
- 6) 散布直後の降雨は効果を減ずるので、天候を見極めてから散布すること。
- 7) 作物の幼苗期や軟弱徒長苗、高温時など一般に薬害が生じやすい条件では、本剤の使用をさけること。
- 8) ストロビルリン系薬剤との同時施用及び近接散布は、薬害を生じるおそれがあるのでさけること。
- 9) 防除効果が低下するおそれがあるため展着剤は加用しないこと。
- 10) 展着剤としての使用に当たっては、使用農薬の使用条件や使用上の注意事項を厳守すること。
- 11) 展着剤としての使用に当たっては、使用農薬の使用上の注意事項に薬害の生じやすい作物、気象条件などが記載されている場合には、本剤の使用をさけること。
- 12) 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。